

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 一人ひとりの長所を伸ばし、「考動力」のある生徒、違いを認め合える豊かな人間性を持った生徒を育成する
各々が充実した学校生活をおくの中で、将来の目標を見つけ、自らの果たすべき社会的な役割を自覚できるようにする
- 1 生徒の可能性を広げ、希望する進路の実現を図れる学校
- 2 一人ひとりに個性を生かした活躍の場があり、互いに尊重し合える学校
- 3 教職員が一体となって教育活動の充実を図り、地域から信頼され、愛される学校

2 中期的目標

- 1 学力の向上と希望進路の実現
- (1) 確かな学力の定着と授業力の向上

ア 教員間の授業公開や研究、生徒による授業評価等を活かし、授業力向上に取り組む

イ 基礎学力の定着度を測り、全教科で学習内容や方法を基礎的事項の確実な定着を図る

ウ 生徒が思考を深めたり、積極的に発表したりする機会を増やし、論理的思考や判断力、表現力等を育む
- (2) 一人ひとりに応じた指導の実施と特色ある教育課程の充実

ア 自主的学習を支援し、家庭学習習慣の定着、学習意欲と学力の向上をめざす

※ 学校教育自己診断「家庭学習への取り組み」R8年度に生徒75%以上（R3：66%、R4：68%、R5：68%）、保護者65%以上（R3：62%、R4：57%、R5：56%）をめざす

イ アドバンスクラスでは高い進路目標の実現をめざし、達成感と目標に向かう力を育む

ウ アクティブ専門コース（音楽・スポーツ）等の充実を通して生徒の長所や得意分野を伸ばし、自己肯定感や意欲、リーダーシップ等の育成を多角的に図る

エ 図書室・自習室の利用促進を図る
- (3) GIGAスクール構想への対応

ア 1人1台端末や整備されているICT機器等を用いて、生徒の理解がより深化するような授業づくりを研究・実践する

※ 学校教育自己診断「ICT機器を効果的に活用」生徒、教員ともR8年度90%以上（生徒R3：78%、R4：77%、R5：82%、教員R3：73%、R4：84%、R5：89%）

イ 情報委員会等を中心に研修などを計画的に実施し、効果的なICT活用に向けてスキルの底上げや情報共有を図る
- (4) 3年間を見通したキャリア教育と進路指導

ア 生徒が自分にふさわしい進路目標を立て、積極的に挑戦し、粘り強く取り組み、実現させることができるよう、進路指導部・学年等を中心に指導・支援する

※ 学校教育自己診断（教員）「生徒の第1志望の進路実現に向け、生徒の力をしっかり伸ばすことができている」をR8年度に85%以上（R3：89%、R4：87%、R5：71%）。

2 豊かでたくましい人間性の育成

(1) 部活動や学校行事等の充実

ア 学業との両立を促し、より強い達成感や充実感が得られるようにする

イ 生徒会等を中心に行事の企画・運営を行うことによって自治意識を高め、協働する力、困難を乗り越える力等を経験させる

(2) 基本的な生活習慣の改善・定着

ア 挨拶や時間厳守、交通マナー、事故防止などの指導を通じ、意識向上と基本的な生活習慣の確立を図る

(3) 国際交流活動等の推進

ア 海外研修等の交流活動（オンライン含む）を通して、SDGsを意識したり、多様な文化を体験したりして視野を広げる

(4) 人権や多様性の尊重

ア 授業・HR活動等を通して、他者を理解し尊重する心や態度を養う

イ 教員が寄り添いの姿勢で生徒に接し、保護者や関係機関等との連携を密にすることによって、相談しやすく、安心・安全な環境を確保する

3 開かれた学校づくりと組織力・教員力の向上

(1) 地域等との連携

ア 部活動や生徒会活動等を通して、地域連携活動を推進する

イ 探究や部活動などを通じて大学等外部団体や外部人材との連携・協働を進める

(2) 広報活動のさらなる充実

ア HP更新や学校見学会、中学校訪問等で魅力発信の強化に努める

イ 学校ブログやメール配信などを活用し、保護者との情報共有を促進する

(3) 人材育成の取り組み

ア 「香里会（新任・若手を対象にした研修チーム）」等を通し、経験の少ない教員の育成に力を入れる

(4) 働き方改革の推進

ア 業務の精選と組織の再構築を推進し、生産性の高い職場をめざす

イ 校内の課題の共有化を図り、解決に向けて教職員が一丸となれる環境をつくる

(5) 施設・設備の充実と美化

ア 生徒・教職員等が快適で効率良く学校生活を過ごせるよう、設備・備品の更新や修理改修、整備に務める

イ 生徒の美化意識の向上と、生徒主体の美化活動の充実を促し、快適な環境を保つ

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【生徒】 本校の教育全体について、微減ではあるが、減少傾向にあることがうかがえる。生徒の実力テストでも、学力層の分布が今までになかった傾向となっている。本校の従来の教育活動が生徒に沿っているか、検討していくことが必要と考えられる。特に肯定率の減少が顕著になっているのは、家庭学習についてである。全学年平均の肯定率は、57％となっており、昨年度、一昨年度と比較しても、17ポイントの減少となっている。生徒自身が、家庭学習を行っていないと自己申告できる状況は学校として重大ととらえるべきではないかと考える。ただ本項目の問いかけは「家庭学習」＝「自宅に帰ってからの学習」と捉えられてしまう可能性があり、実際の生徒の様子を見ていると、本校の自習室や図書館を利用した学習、塾の自習室での学習など、学習している様子は多く見られる。来年度以降について、自宅だけではなく、授業外での学習時間を把握できるような言い回しで調査・検討を行うべきだと考える。 一方、学校生活全般における肯定率は高い値を維持しており、学校生活が充実していることが伺える。学習面だけでなく、学校生活を通して学ぶ機会を積極的に活用することを継続してほしい。 【保護者】 昨年度、一昨年度と比較しても肯定率の変化は小さいことが伺える。良くとらえると、現状維持ではあるが、悪くとらえると肯定率が低いものが低いままであるということである。授業のわかりやすさ、学習習慣や勉強と部活動の両立については、肯定率が55 から 65％の間を推移している。家庭学習をしていないと捉えているのは、保護者も同様である。「家庭学習」という言葉の解釈ではあるが、生徒の項でも述べたように、授業以外の学習を保護者がどれだけ認知しているのか調査する必要もあるかもしれない。保護者からは、勉強と部活の両立や、家庭学習など、学習について学校に大きな期待があることが伺える。教員が授業以外の講習などで積極的に生徒とかかわる時間を設けるなど工夫が必要だ。 【教員】 昨年度に引き続き、肯定回答率が低下している設問がいくつか見られる。特に、教育システム関連の設問において、肯定率がおよそ 10％低下している。特に、カリキュラムなどについては、来年度以降、選択科目のスリム化を行い、一教員あたりの科目数について減少できることが期待される。 また、教育相談体制についても肯定率が2年連続減少している。教員が生徒のために時間を有効に使うことができていないという現状が、結果に表れたものだと考える。働き方改革が行われているが、業務、学校運営の体制について更に精選し、見直しを図ることが急務である。 一方、学習意欲の高い生徒への取り組みについて、肯定率が 19％上昇している。今年度より、新たな組織である「学力向上委員会」を立ち上げ、生徒の学力の底上げ、向上に向けて議論していることが、肯定率の上昇につながったと考えられる。	【第1回】令和6年7月5日（金）＜協議会長の選出、学校経営計画＞ ・ 自己診断において保護者からの回答率が低いが、改善策はあるのか。 ・ 昨年度より国公立大・関関同立現役合格者数が大幅に下がった理由は何か。 ・ 家庭学習の取組みにおいて、取組みの数字が上がっただけではなく、具体的に web 学習や得意・不得意分野を明確にし、学習到達度の低い生徒へのサポートが必要であるのではないか。 ・ アドバンスクラスの募集方法と基準はどのように定めているのか。 ・ 近年の大学への出願傾向はどのようにあるのか。 【第2回】令和6年11月8日（金）＜授業見学の後に運営協議会、教科用図書選定を実施＞ ・ chromebook を使ったアクティブラーニングを積極的に取り入れていく必要がある。 ・ アクティブスポルトコースの授業において、生徒が主体的に学んでいて活発であった。 ・ 大学入試の制度が柔軟に対応できる指導体制が必要である。 ・ chromebook の活用方法等の研修を定期的に教科ごとや学校全体で行う必要がある。 ・ 数学の少人数展開は1年生のみの実施ではなく、3年間継続して実施していくべきではないか。 ・ SNS の影響で読解力がないと片づけるのではなく、どのようにすれば、語彙力や読解力が向上するのか考えていくべきではないか。 ・ 来年度に向けて選定された教科書の実物を用意してほしい。 ・ 遅刻の総数が昨年度に比べて増加した原因は何か。 ・ 長期欠席生徒への対応はどのようにしているのか。 ・ オンライン授業の実施についてどのように考えているのか。 【第3回】令和7年1月24日（金）＜学校経営計画達成状況、令和7年度学校経営計画＞ ・ 家庭学習への取組みの数値が低い原因はなぜか。 ・ 1年生においては50％が家庭学習に対して肯定は高い傾向だと考える。 ・ 進路実現のための学習支援の数値は高い。進路選択のための情報提供は指標に対して低いのももう少し分析が必要ではないか。 ・ なぜ指標に達成しなかったかがわかるように学校教育自己診断の結果の生徒自由記述を載せてもいいのでは。 ・ 悩みを相談できる先生がいることに対して高数値である。 ・ 「開かれた学校作り 地域等との連携のイ」を簡条書きにしては。 ・ 救急講習等の社会上で必要な知識を獲得するための講習はしているのか。 ・ 制服、食堂等の生徒が関心の高い点は今後、過程と結果を広報してみてもどうか。 ・ 学習支援連絡網等で学校からの連絡は来るが、保護者がどのように学校と関わっていくのかを示す具体的な内容と指標がほしい。 ・ 一人ひとりのニーズに応じた支援の具体性がほしい。 ・ アドミッション・ポリシー、スクールポリシーの内容に関しては、選抜制度改革の内容とともに協議会で確認したい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 教育力の向上と希望進路の実現	(1) 確かな学力の定着と授業力の向上	ア 各教科で研究授業等を積極的に実施し、「生徒が主体性を持って学び、理解できる授業」をめざす組織的な授業改善の取組みの活性化 イ 学力生活実態調査で基礎学力の定着度を測り、各教科で学習内容や方法の検討・改善を行う ウ 授業の中で自分の考えを深めたり、まとめて表現したりするような時間を設け、思考力・判断力・表現力等を培う 特に「総合的な探究の時間」では、情報収集・目標設定・討論・調査・まとめ・発表の一連の活動を通し、これらの力を育成する	ア 学校教育自己診断（生徒）「授業は適切で分かりやすい」85%以上維持[85%] 授業改善の取組み状況 イ 1年、2年の学力生活実態調査のGTZ「B」定着〔1年：B3、2年B3〕 ウ 学校教育自己診断「授業の工夫」85%以上 [84%] 「探究」活動の生徒アンケート満足度 80%以上〔1年：90.3%、2年：97%、3年：87.9%〕	ア 学校教育自己診断（生徒）「授業は適切で分かりやすい」82%（△） 授業力向上を目的とする教職員向け授業公開週間を新設（11月19日～22日、1月20日～24日）。最終日には研究討議を実施 イ 1年GTZ：B3 2年GTZ：B3 学校運営協議会で「GTZは下がるのが普通で維持は大変難しい。十分評価に値する」との声をいただいた（◎） ウ 学校教育自己診断（教員）「授業の工夫」80%（生徒）「授業の工夫をしていると感じる」79%（△） 「探究」アンケート3年「探究の時間は充実」肯定82%（○） 1・2年生は、令和4年度作成の探究カリキュラムに基づき、授業を進めている 各学年の担当者が、探究委員会で取組みの振り返りや情報交換を行い、指導方法について研究を続けている。また次年度よりループリック評価等を用いた評価を組織的に行う予定である

府立香里丘高等学校

2 豊かでたくましい人間性の育成	(2) 一人ひとりに応じた指導の実施と特色ある教育課程の充実	ア WEB予備校や授業外の学習指導活用を促し、自主的な学習、家庭学習充実への取組みを支援する また、入学直後に高校生活や学習法について説明する学習オリエンテーションをさらに充実させる イ 生徒のニーズに応じた講習・補習等を計画的に実施し、主体的に学び続ける姿勢を身につけさせ、学力向上・定着をめざす ウ 新たに3年に設置する「アドバンスクラス」では、高い学力を求められる進路目標を持った生徒たちが互いに切磋琢磨し、難関私大や国公立大の一般入試に合格する学力を身につけることをめざす エ アクティブ専門コースがより生徒のニーズに応える魅力的なものになるよう、高大連携等を活用して授業の充実・深化をめざす オ 図書室・自習室の利用を促す。特に読解力・文章力など学習の基礎となる力を養うため、読書の習慣づけを促す	ア 学校教育自己診断「家庭学習への取組み」(生徒)70%以上 [68%] イ 学校教育自己診断 (生徒)「進路実現のための学習支援が充実」90%以上 [91%] (教員)「学習到達度の低い生徒への指導が行われている」60%以上 [56%] ウ 学校教育自己診断 (教員)「学習意欲の高い生徒に対し、その期待に応える取組み」55%以上 [53%] エ アクティブコースの次年度選択者数計60人以上維持 [66人] オ 図書室の貸出冊数を維持 [1386冊]	ア 学校教育自己診断 (生徒)「家庭学習への取組み」51% (△) WEB 予備校参加者数 181人 イ 学校教育自己診断 (生徒)「進路実現のための学習支援が充実」91% (○) (教員)「学習到達度の低い生徒への指導が行われている」59% (△) 夏期・冬期講習のほか、夏休み中に「勉強合宿」、自学自習支援型の放課後勉強会、自習室リニューアルなどを実施 ウ 学校教育自己診断 (教員)「学習意欲の高い生徒に対し、その期待に応える取組み」72% (◎) アドバンスクラス初年度 39名 エ アクティブコースの次年度選択予定者計74人 (スポーツ61人、音楽13人) (◎) オ 図書室の貸出冊数 998冊 (△)
	(3) GIGAスクール構想への対応	ア ICT (特にリーディングGIGAハイスクール事業で新たに獲得したプロジェクター等)や1人1台端末を活用した協働的な学びへの支援を推進し、生徒の集中力を高め、より効果的な授業につなげる イ 教育センターの研修等を活用するほか、教員同士の相互授業見学等を通して、ICT活用方法を含めた生徒の能力を伸ばすアイデアの共有を図る	ア 学校教育自己診断「ICT機器を効果的に活用」生徒・教員とも85%以上 [(生徒)82%、(教員)89%] イ ICTや1人1台端末を活用するための教員研修を年2回以上、研究授業を年2回以上実施	ア 学校教育自己診断「ICT機器を効果的に活用」(生徒)83% (△) (教員)93% (○) 授業でGoogleフォームの活用や、教育用ゲームのプラットフォームの活用事例等がある イ 4月にプロジェクターの新機能についての職員研修と、新着任者向け1人1台端末説明会を実施 11月にICTを活用した研究授業 (公開授業と研究協議)を3回実施[○] 12月に教育センター主催の研究フォーラムで本校の取り組みを発表し、他校の取り組みについても情報収集して校内で共有
	(4) 3年間を見通したキャリア教育と進路指導	ア 「学力生活実態調査」の活用、大学見学会、進路情報の提供等を通じ、キャリア意識の向上を図る また、生徒が目標とする進路をめざして粘り強く取り組めるよう、多角的に支援する	ア 学校教育自己診断 (生徒)「進路選択のための情報提供」85%以上維持[85%] 「将来の進路や生き方について考えることができる」90%以上 [88%] 「進路希望を実現するために努力」60%以上[58%]	ア 学校教育自己診断 (生徒)「進路選択のための情報提供」83% (△) 「将来の進路や生き方について考えることができる」88% (△) 「進路希望を実現するために努力」67% (◎) 進路選択のための情報提供機会は以下の通り 1年:大学見学会、進路ガイダンス・オープンキャンパスレポートの作成、進路HR 2年:進路模擬講義、進路講演会、オープンキャンパスレポートの作成、進路HR 3年:進路学年集会、入試に関する情報開示
	(1) 部活動や学校行事等の充実	ア 部活動内での学習支援の充実 行事や部活動の終了時刻の徹底やノークラブデーの完全実施等により、学習との切り替えを促す イ 生徒のリーダーシップ養成のため、体育祭・文化祭等の学校行事を企画・立案する機会を増やす 「香里を考えるHR」等を通し、積極的に学校生活の充実に取り組むよう促す	ア 学校教育自己診断「学習・部活動・行事の両立」(生徒)90%以上 [91%]、(保護者)70%以上 [64%] イ 学校教育自己診断「生徒会活動は活発」85%以上 [92%] 「行事は、生徒を中心に組織的・効率的に運営」95%以上維持 [97%] 生徒からの学校生活改善提言などの具体的な内容・状況进行评估	ア 学校教育自己診断「学習・部活動・行事の両立」(生徒)88% (保護者)65% (△) 部活動加入率83% (1年86%、2年83%、3年80% [昨年78%]) イ 学校教育自己診断「生徒会活動は活発」89% (○) 「行事は、生徒を中心に組織的・効率的に運営」97% (○) 体育祭満足度 肯定99% 文化祭満足度 肯定98% 香里を考えるHR (10月31日)テーマは「学年をこえた交流」。11月21日の生徒総会で各学年からの提案を話し合い、生徒の声を集める「未成年の主張」箱設置や、新入生歓迎会での交流などの案が出た 生徒会主導で昨年度から始めた国際交流・支援活動は、スラム街の子どもたちを支援するウガンダの市民団体と連携。支援対象となる現地の中高生とオンラインで交流するなど、活動を広げている[○]
	(2) 基本的な生活習慣の改善・定着	ア 挨拶や交通マナーなどの指導により、校則の順守と規範意識の向上に取り組む 特に生徒が被害者・加害者にならないよう、自転車のマナー指導を強化する はじめのある生活を定着させるために、時間を守る意識を高める。遅刻者に対しては、生徒指導部・学年等が連携して段階的な指導を行う	ア 遅刻者のクラス当たりの延べ人数を前年度から減らす [40人/クラス] 毎登下校時に自転車指導を実施できたか 挨拶や声かけを継続的に実施・指導できたか	ア 年間遅刻者902名=48人/クラス (△) 遅刻者へは、当日中に指導を実施し、遅刻3回で保護者に文書連絡 自転車指導は毎朝、校門にて実施 挨拶、声掛けも毎朝、校門にて実施 各学期、始業式・終業式の全校集会にて、生徒指導部長より、挨拶、声掛けの呼びかけを実施
	(3) 国際交流活動等の推進	ア 「国際交流委員会」等が中心となり、コロナ禍で中断していた海外の生徒らとの交流 (オンライン含む)に取り組む 生徒の海外研修実施をめざす	ア 国際交流の具体的な内容・状況进行评估 海外研修の再開	ア 他校と共同で計画していた海外研修は、相手校が今年度の実施を断念したため、本校単独での実施を模索したが、希望者が最少催行人数以下であったため断念した 前述したウガンダ中高生との交流は、多くの生徒が参加して文化祭をオンライン中継した。今後も交流活動を継続していく (○)
	(4) 人権や多様性の尊重	ア 授業・LHR・各種行事を通じて、人種や国、性別、障がいの有無等にこだわらず、多様性を認め合い共生する姿勢を育てる 生徒・保護者・教職員対象の講演会や研修等の取組みを進める イ 教員が寄り添いの姿勢を持ち、スクールカウンセラーらと協力し、生徒が声を上げやすい環境をつくる学校生活に困難を伴う生徒については、就学	ア 学校教育自己診断「平和や人権について学ぶ機会がある」85%以上 [86%] 教職員研修の保護者への開放を継続 イ 学校教育自己診断「悩みを相談できる先生がいる」60%以上維持 [65%]	ア 学校教育自己診断「平和や人権について学ぶ機会がある」(生徒)80% (△) 人権HRや授業において、1年生は「拉致問題」、2年生は「同和問題」、3年生は、「労働者の人権」について学んでいる 多様性を尊重する観点から、制服検討委を設置した 学校教育自己診断「悩みを相談できる先生がいる」71% (◎) いじめアンケート、セクハラアンケートなど実施

府立香里丘高等学校

		ウ 支援委員会で情報を共有。保護者と連携しながら個別の支援計画を作り、充実した支援をめざす 情報モラル、メディアリテラシー等に関して適切な知識を得るよう促す	ウ 情報モラルなどについての研修機会をつくる	ウ 体育祭、文化祭のクラスTシャツのデザインを人権上の観点から人権推進委員会で確認 生徒・保護者を対象に、入学式直後にSNS講演会(外部講師)を実施 2年生「消費生活講演会」(○)
3 開かれた学校づくりと組織力・教員力の向上	(1) 地域等との連携	ア 地域の中学校との運動部交流大会「香里カップ」や、文化交流イベント「香里フェス」を開く また、行事の公開、クリーン・キャンペーンなどで、地域連携の活性化を図る イ アクティブコースと大学(大阪音楽大学など)・専門学校(大阪医療福祉専門学校など)、探究活動と大学(関西大学、大阪工業大学など)などの連携・協働を継続し、豊かな学習環境を提供するよう努める	ア 「香里カップ」「香里フェス」を合わせ、5部以上[4部] 学校教育自己診断(教員)「地域や小中学校の人々と接する機会がある」60%以上[69%] イ 連携・協働の継続と新規連携先の開拓	ア 「香里カップ」「香里フェス」計5部実施(吹奏楽、ソフトボール、サッカー、女子バスケットボール、ソフトテニス) 学校教育自己診断(教員)「地域や小中学校の人々と接する機会がある」75%(○) 体育祭・文化祭を保護者、地域に公開 クリーン・キャンペーン計2回(6月、11月)実施 イ ・アクティブ・スポーツ:大阪医療福祉専門学校と連携し、テーピング講習会などを実施 ・アクティブ音楽:大阪音楽大学教授らを招き、演奏技術の向上に努めている。本校出身の作曲家の協力のもと、作曲・編曲にも取り組んでおり、2月に校内で発表会を実施した ・探究:1年生で関西大、2年生で枚方市役所などと連携。さらに今年度から、2年生が地元企業とコラボしている。年度前半で地元企業と共同開発した「みそカツバーガー」は市販が決定。後半は枚方駅前の商業施設とコラボし、デジタルサイネージで流す啓発動画の制作や、イベントの企画・実施を行っている(◎)
	(2) 広報活動のさらなる充実	ア HPの組織的な更新、学校見学会等を通して中学校や地域に情報を発信する より速く広く発信していくためSNS等の活用を図る イ 学校ブログやメール配信等でタイムリーな情報発信に努め、保護者との協力体制の強化を図る	ア 学校見学会の年3回実施を維持 参加者の延べ人数900人以上[1071人] 学校教育自己診断(教員)「中学生やその保護者、地域に向けて情報提供や発信ができている」80%以上[80%] イ 学校教育自己診断(保護者)「連絡や意思疎通が適切」85%以上[86%]	ア 校内学校見学会は3回実施(6月8日、11月16日、1月25日)(○) 延べ967人参加(○) 外部説明会4回のほか、塾での説明会も2回実施 中学校訪問は、例年の約50校に、今年度受験者がいなかった中学校も対象に加えて計70校程度訪問 5年ぶりに中高連絡会を開催。8校参加 学校教育自己診断(教員)「中学生やその保護者、地域に向けて情報提供や発信ができている」74%(△) 学校教育自己診断(保護者)「連絡や意思疎通が適切」85%(○) 新しい連絡システムを導入。登録や開封状況が確認できたり、使い慣れたアプリでも利用可能だったりするため、好評。保護者に情報がダイレクトに届くよう、積極的に発信している 動画配信サービス、SNSに公式アカウントを開設し、運用を開始 イ
	(3) 人材育成の取り組み	ア 「香里会(経験年数の少ない教員を対象にした勉強会)」で、教員が自信をもって授業や生徒指導、保護者対応等にあたれるよう、先輩教員が指導。研究授業も実施する	ア 「香里会」年10回以上を維持[20回] 研究授業の実施回数(初任者:年2回以上、2年目:年1回以上)を維持	ア 香里会22回。香里会通信も21号まで発行済(1月末現在)(◎) 研究授業7回実施(○)
	(4) 働き方改革の推進	ア 業務の一層の精選と組織の再構築を図り、より働きやすく生産性の高い職場をめざす イ 部活動方針を遵守して適切な休養日などを設定し、適正な指導・運営体制を築くことで、教職員の時間外勤務時間の縮減を図る ウ ICTを活用するなどして、校内課題の共有化を図り、解決に向けて教職員が一丸となれる環境をつくる	イ 年間平均時間外勤務時間60時間以上を0人[6人] ウ 校内の課題や業務内容の共有、軽減策の具体的な進捗状況	イ 平均時間外勤務時間60時間以上7人(△) ウ 分掌やクラブ顧問の引き継ぎ・業務内容メモなどを整備したり、各行事の運営を見直したりしている。次年度も継続予定[○]
	(5) 施設・設備の充実と美化	ア 生徒・教職員等が快適で効率良く学校生活を過ごせるよう、設備・備品の更新や修理改修、整備に務める イ 定期的な大掃除等生徒主体の美化活動に取り組み、物を大切に扱う姿勢や美化意識の向上を促すとともに、快適な学習環境を整える	ア 学校教育自己診断「本校の施設・設備はよく整備されている」生徒・保護者とも生徒・保護者とも75%以上[(生徒)86%、(保護者)67%] イ 学校教育自己診断「校内美化や衛生管理に努めている」(保護者)80%以上を維持[88%]	ア 学校教育自己診断「本校の施設・設備はよく整備されている」(生徒)85%(保護者)69%。しかし、来校者からは、必ずといっていいほど「非常にきれいに維持されている」「よく整備されている」との声をかけていただいた(○) 教室で快適に効率良く学校生活を過ごすために洋式トイレ工事施工(2回実施)やR7年度においては、受水槽・消防設備取替工事を施工予定(実施設計まで完了) 学校教育自己診断「校内美化や衛生管理に努めている」(保護者)85%(○) 各階手洗場の清掃を心掛け、今年度からは週に1回清掃業者による定期清掃も実施している イ